

Title	忍室和尚の墓
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1934
Jtitle	史学 Vol.13, No.4 (1934. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	口繪
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19341200--004">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19341200--004</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 忍室和尚の墓

日本吉利支丹傳道の先覺フランシスコ・シャギエル上人が鹿兒島上陸後（西曆一五四九年八月十五日）間もなく親しくした禪僧にニンシット Nixxit といふのがある。上人は此のニンシットを説明して、日本語で“Coração de verdade”（眞理の心）の義だと言ひ、彼の爲人、交友の甚だ深かつたことをその書翰中に詳しく語つてゐる（一五四九年十一月五日附 Monumenta Kaveriana I. Pp. 609—610.）。又ルイス・フロイスはその「日本史」の中に一五六一年の秋ルイス・アルメイダが鹿兒島を訪問し、フクシヨージのネンジツ Nenjisu と會して親しく談を交へ逝ける上人を追想して感慨を催したことを述べてゐる（Die Geschichte Japans Pp. 122—126.）。

此のニンシット若しくはネンジツが、島津家の菩提寺たる福昌寺の第十五世忍室和尚たりしことは疑を容れない。「福昌寺住譜」（開山石屋禪師と福昌寺採録）によれば「十五世忍室和尚、諱文勝嗣法天祐和尚薩州人事世姓伴氏萩原文十四年乙巳住當山弘治二年十一月二十八日化于福昌寺」とある。弘治二年は西曆一五五六年に當り、アルメイダの訪問せる一六六一年との間に年代的矛盾あれども之は後日の研究に待つ。

こゝに掲載せるは現に福昌寺の墓地中特に歴代住持の墓を以て一廓をなせるものゝ中より撮る。同十七世雪舟玄濟和尚、右、毀損して文字不明。忍室の墓はこの間に在り、忍室の外に文字なく、全長百二十五糎、臺石の高さ六十三糎。

去る八月鹿兒島に遊びたる時、同地圖書館長奥田啓市氏の斡旋によりて寫眞し得たるを悦び、又池田米男氏が同氏編の「開山石屋禪師と福昌寺」を惠贈せられたるを深謝する。（吉田小五郎）

